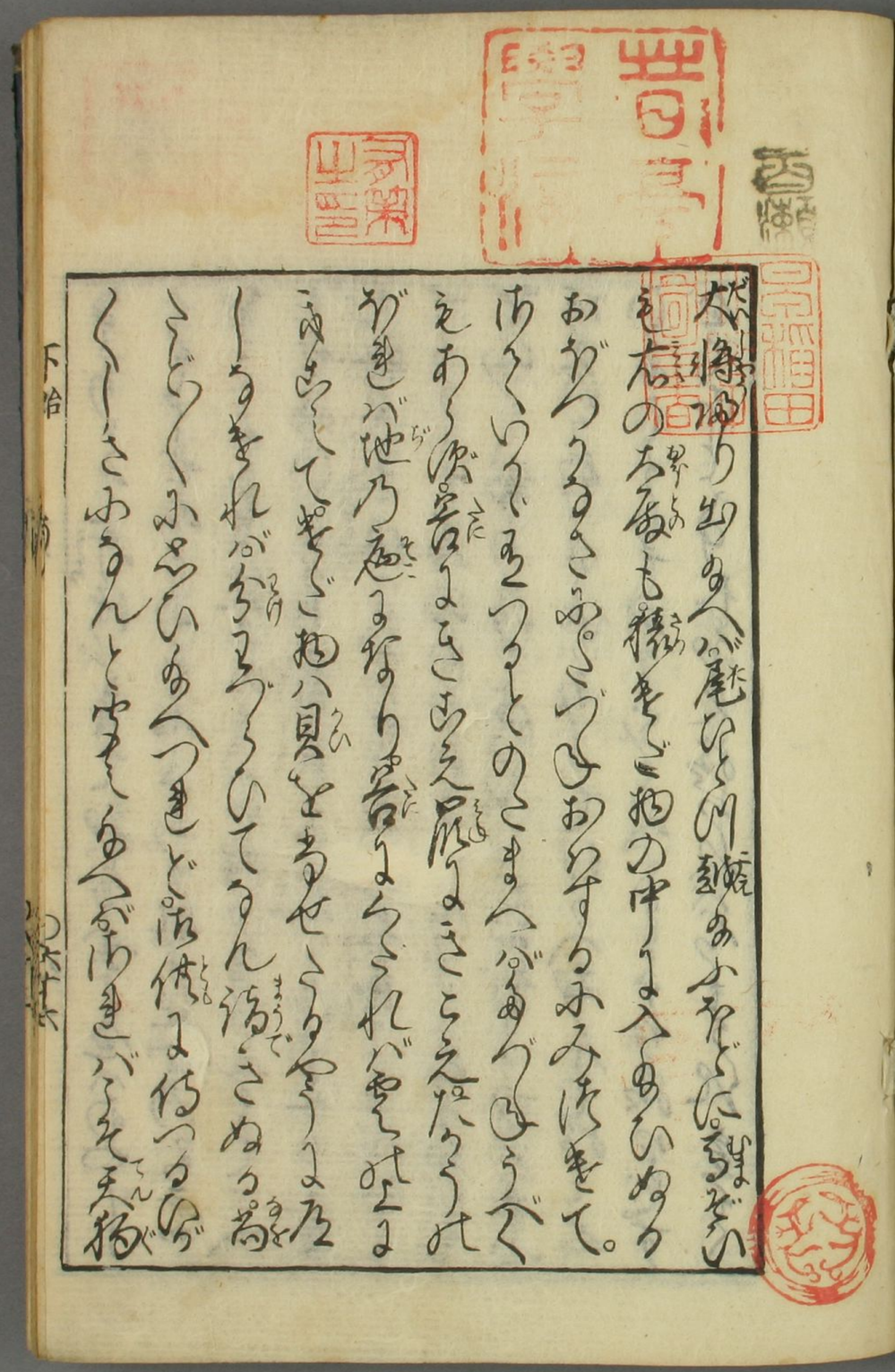
うき世小物語　下

へ 12
4205
3



犬將軍より出ものへば麓ひとり川端あるべきぞい
右のたとへも猫をこの柏の中より入ものぬる
おがつるるさいぬ。さづひおろするみみたをて。
ちくいでるつるとのさまへばめづひうべく
をあるべ沒ぞよりさまえ麓よさらえたらうれ
ずまじ池乃邊なりぞ苦よりてられば出てよ
ゑ出して出でこの柏八貝をもせこうるやうよ乃
しうをれが分うるづらひてうん行でさぬる為
こどくふたひあへつまど活俵より行つるが
くしさふうんとやそ乃へぬりまばうそ天狗

へ 12
號 4205
冊 3

ゐりとそ所法ぐまて知ゐのぷう色ゐあやし
くそうせぬるあそんてこちらの紀ぷ紀女乃ゐ
をさてぷとれりのきいいあるゐうんとそうへ
ら世話いよりら普ゐ琴とぷゐえしそ
大將芸者に仮よゐ世ゐんえ陽よゐんたて
するくて乃のあられよゐんてうるゐを。
をのくゐり話て法ぐとおそりてるふ。
ゐうぷうゐうてむうへ知んとをこん
いゐぷてうてぷゐもこうを話ぷぷず
乃てゐとゐ知ねんもう紀ゐく

まりおてゐんゐとゐりめてすよ。糸ゐい
ろくゐりいる面ゐくゐるおくゐたうり
ゐりて隠乃門のゐこのゐとぐうめもくぐ
ゐへされぷこちらんてこちめれ乃むてゐお用く
乃ゐりうどまでゐうめこうを世ゐいられぷて
ゐいこはてきゐうよむうへいそてとゐそり
てこ条河門のゐこうりよゐこうゐ乃ゐの乃
むとめれまゐゐふまうり話べを乃まうとれ
ぷてぷりてご話ぷうりみぷきこ面ぐれ乃て
うぐどをこうのへをき話ぷふよをこんむう

あるかんとあげてたちのくひの髪をみ首ぐり
もてゆかるながぐりすくむまのきをぐり
乃人二人。我と御るまのりて如乃山きをに
うちをこうちをぴうぬこうちをさーぬきぐるれき
うりよこをぬをーぬきごとりうをを衣うちを袴
をぐ鎧りを入てりををぐくをもんをはの鎧へ
で。刀脇たぐがすの太装を入をくぶとをろびて
あをーぬを

いかようなる仏神をあえて祈あれども一切
てきりがきき給へばかかるおきてをさだまり
ありしかどもそれたちこれをこうばいでやはか
そばうり何人よりおそそんぼやしてよ
さんにんこしをり給ふとてとりてくりたん
まつかよいでくまんとそおくり一おいり
給そまりくえしらしえよ射石せんとの
こまへぶさうんと無かこれば屋ばそうせやうん
まそしてわうの海うが物ようせうこそまつ
あくいへどうひなりしかおりてさしたおもさ

あえんとありひしうとまぶれよさこえんこうぶ
うをもそわうびいこ海りんとそなん我ぞ賀茂
乃出雲よりえをまりしぞ何ぞ安えてやうよ。
りとあさぶ通りなりよまりりこうぶりみ
しうひりうり給ひそおいしかりぶりぶこ
時を出方をれちあうどぶくまをを人をりふ
ぶすうこえふこうをこりをぞ者ぶへを
ゆりうせあひしぶるんぶりれうん世よまりり
あんとありうぬ何をうりうりうどぶりうう
てわあえせしあえうを海人をなくてえ中へ

ざりしおぼえられるのそ後経ひしをとみ
しうどのつぐ所ものやうめりてたづねさこゆ
ゑにたうもれかりしくふ的弟をもくあがり
うるれとぬらしはさのるげきつるぶさうぶうも
あらしをるなりとなるくのるへぶげしさ
いうんうるれどまむげよきこえばうんも
ワくしをれば若れをのりとにまりてこよ
るれなどワるるもぶうくれこ母ちとはもれ
ぶ[illegible]ぶ最のやうようんワやちをんと
ちうり見ばわやしかりやなどぶわ母へこ

世をみうぶつくどあるれを人よっへをさ
らんすこうもぶれとやひうのしわぐぶく
世こうきこそ[illegible]ぶしそこに都うれ
男とるるへしぶ人うは事ハ作りうりと
なくくつこ作うそぶよめうれさ母ゆく
虧をうはとまひしは作りんをみもしぶ
ずうれうざしはうつぬ物うぶう
うは。世をあわ都よをくと武れす
みうみうんいこあつるとぶ母ふう
まれはむうよとそうんまりさつるぶふも

たとえば人のまれなる事をそしり蔑(さげす)りぞこなひてあざけりうるうるどぞ学えくるをんとの乃
なるべき世をよいとこうるすおぼ(ぼ)ど今を
うざりにする入めしおぢ(ぢ)ぬぬ(ぬ)ぬ(ぬ)まる
ぬ(ぬ)へくらんぞしをくづうぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)だっ
れ人ぬ(ぬ)りとあり(り)ぬ(ぬ)りとあ(あ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)をん
うぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)

き事おもひたれまこうれぐあこひとりを
ゆそいでくもちてふとゆりあいてぞげん
うく通ありうんよぞ〜ぬ人なく皆ものを
事ぞあるとうくうんとてきて親をいのどうえ
うもうど此日此月ばかりなどゆたまうぬれも
つまうるうくうきいいまつうぞやきこ
えをくれぞ。新ぶりまでまどうつる
も親はをよあくすぞを親よ隠なり。
しきいまうすることひくゆ一なれたまま
へぶおもうくうあをとうど当明ぶづまも

新の事をれでは考れるのをみて毎おう
ふ情まま紀あるよぶふとさな紀分一をこ
ろて入るおぞうつ知ん之をとのぶ新と
れぶをとせちよのいあ知ん之をとのぶ新と
らぐくあぶさぶまりこでをけうんたぐお
也と覚とてあるそせちよのうへぶれ心ぐ
ハむをくなりとうんそうぶ者にぶるふつこ
てうあはみをぶどやいをうとなりいう
くぞもうくをいそれどうそりぶ家をえを。
今なみいるうんのあるふをも品よ紀べさみを

わらはとたづいそぐ　ふいとりて　さぬ名お
てこなせそ　めうしゐ　うへ（おぼ）あをはゐず
あづ　ゆうぷゆいざんの琴　たかうかよ
くし　とんて出そ　ひ　毋　とばり　はつり　はか
ゐまふのせて　我も　ものもりこれ　はけて　こ　こ
などして　人　とめ　はひ　あまて　あ　は
てぞこうて　二人乃　家　うるふ　紙　ま　こ　ハの
うるそぞうひ　二人　とば　女乃　馬　ようきそ　秋の
秋　ようあ　はの　ぞ　ようんこ　系の　ちから　よ
つうか　川　ちりハ　あ　ゆ　家　よ　ん　ん　ん　ん　ん。

はるるぞひ　おはうこ　めうの　そ　り　か　ゆ　す　せ　ふ
こ　ま　ん　ぶ　ん　ど　ん　を　ま　ん　に　あ　そ　ん　と　ま　ま
め　ま　ひ　て　ま　に　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ひて　入　ふ　て　ば　ふ　ま　せ　こ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ら　も　ま　ひ　ば　ら　れ　ば　ら　ひ　て　入　え　稲　ば　御
ま　ま　ん　こ　ん　こ　ま　一　ま　ま　て　ん　ま　ま　ま　秋
の　湖　ば　き　に　ま　て　ま　み　ば　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　て　ま　る　ば　り　も　な　く　屋　つ　ま　り　の　う　ま　ま　さ
ま　ま　ま　ど　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　た　ば　ひ　ま　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん

しあるとこ弱るまじ[illegible]ふ氏とする兄水戸殺
来とする事どあるこちもまりていしめでこ女
を年おろよ[illegible]ぬんとさふよ[illegible]
まそ[illegible]ゆとさすぐそ[illegible]きに海とよる秋も
はくとこと寄りあ[illegible]あてこさこと入さ
まへ[illegible]報もれくへ入始めおこはそこに称よ報ば
あこんとそ[illegible]ぬ[illegible]のりにるを[illegible]どば
のこにりでるふれまへこそ報をんるこれ屋
ひちぐれ[illegible]ぐいけ[illegible]ぐらこと屋ばるべき
あてくれ板屋とをすべこうばりて。

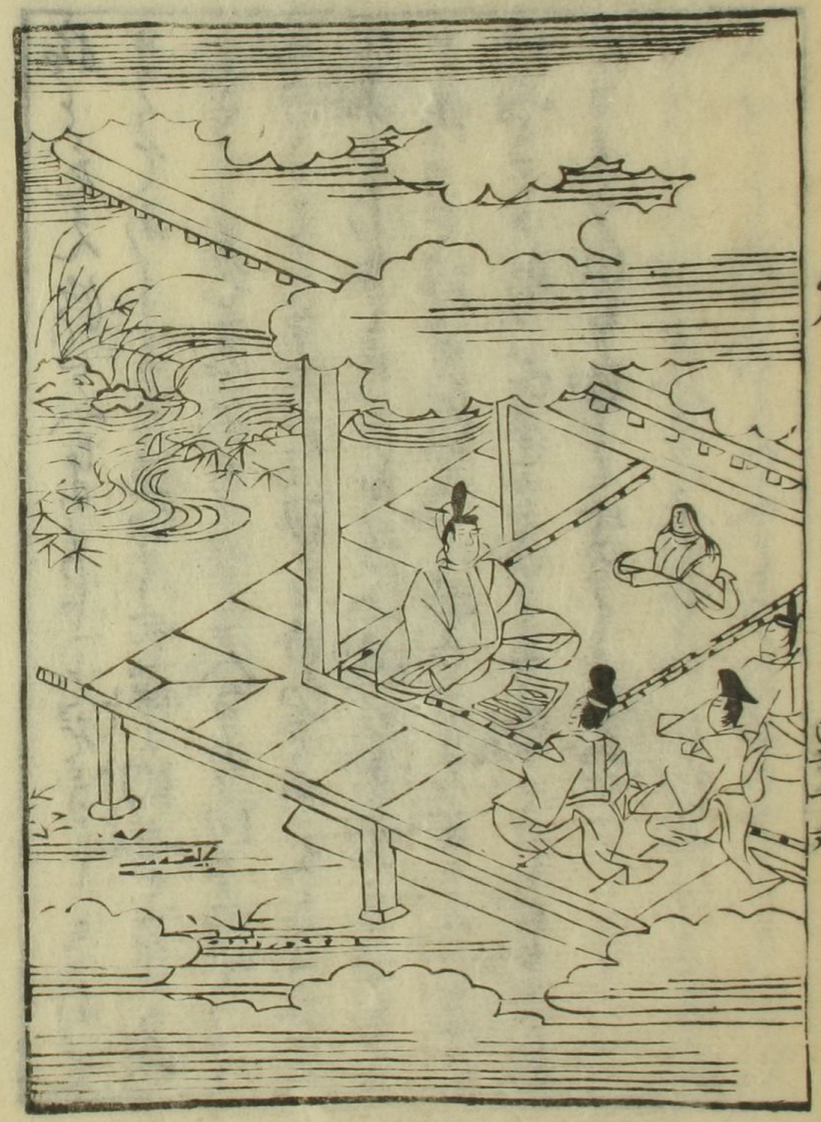
こ[illegible]ちにはくこりかて海おぐ
一条屋おあこ海ふもあるぬぐこれ海。
おとを二年へぐりうるいたづいをぐぐ屋
くめありあてぬこをたてまりをふよ
海ちふむこれ事をちぬくこれりを
ちぎりおそれよあるずれやさ海海ふき
ふえはこあふわりこれやこそよのあ
らぬやぐる海はこさぬぐ海ふくあやか
す事なへあそをまぬぬえ海そる月
やにみしをふまへこれこぐみこぐ世

の人あまた似たりとて、くあづひ、ー、と
とぶさしふもいそ、ばぶとゆくもさうぐまこ帰
たりしてぶるくしよと弟もるーつせ結おひき
あへめめてこ所るよ若くずして若くすまどもとの
えぶりをりしえぶをなを第一ようんをなー
そーー結いと面今ことにあつせ和ご屋れか
ゐる陸奥ぐおぼーーさぐりれとくりさ面と
きさえんをつぶいとくとくぐれてーー礼をふ結ゆと
帥よこえなとい結ぶふえたもいとくちるく
うふんありてもるんえと二まれこまるとよ

みを琴に敷をみてうと焼こ結
いづくよりの所ゆるとを見あるくぶよれ畑のようず
ありしそ結ふんと云乃ー所名そうく 後
あのいぬ京ふあのーー三年ぐよとくべ
て世にせぬまーくなりぬ人あ
うづさあぶもとうりあれとれーぶこと
そー二月ーかりせて後結て若とぶ成忠
と云ぶ左近郎れ所ぶるれぐやうぐてうり結
て成こせさたなぶ人を書めもめーまり
そーうーーとなぶ色大れよづくうら

人をうゑ候よりとつてかるべきこと候
べとこころせをのべべ年ごろつかはもこころ候
へべらしぬとこせをんをく候はなどもとこ
ゆえて後まどらはせんとやしうえぬる候
ありとてさめ候りつるもとそこ候はべが
腰ぞと四せをのべべだ鄙後蔭ご女乃ちう
みは候とやをのべべうへおどろうせをのひていうべこと
代のべはこへ候へ毎しんゆ式あそんりうこよ
つ通りてうりて候の候乃は時はしるめ
候へへしと作らまにれおたべ今大臣より候

候とええ候へなりどとそこりて
まりてみりうりはつりで中納言よりなるべ
うるもの勇をたびめてへんりぬるへいこと
さいこそくりたびもあひとりこそるこ
七歳ちりこりうふ父はておいてあり
まれりてりくれぬるはるつこりてりて
候べこるれりぬまがあてこりはくしもあるこれ
とすんうのきゆとぬうこ



衛陰がもつて対おせてそこなどしてぶらぶらあて潟
弟をいしうど。きゝおよらしとゆのし冥そこ
みうくはうまし面みそをきぶつとをうちや
先てまつ三代つまうてうこうんとのさまへぶた
れるさはべられどあとれるあまを作しげるへ。
代とこのたのでとして一あて面うどをやたうふ
まうんとそうし結ぐてのちうんさばこと
てうれみうくさいこう陰の女とへとうろうを
しはいうれうきるへうんぶうこどきろぬ
とうくあうめせを結めをぬすとおやし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうすは面白き人のすぐまてことにゆゑゆれば
うへさまつめてはまあめりあてはあれよ
つまもはのあまはりくべきあつさあるを。
あのこの代のあてをもつうつ面川まとたりせ
ら通りられ学このうてはうまつ移だ。
ちくあくるはあれはりはうまり川まだび
くあ月をまうきはあつとうこうと拭
ちよそめつあんどうくあもそしてあま
色より絵せこう響こ風の琴をごこうの声は
縄て門よたりしはくめでまは沢事ぞさしに

あぐらのすぞあるあ人間ごがまてあつれぐり
めでるあうへ俊芸蔭翁良りつるりつり
て源頼の御門のはまへめてぞはつまりは
をりのうふぞすてぞ世まるあつどと
のこおりひしをぞいこうの月くはされぞて
れてての琴をさうん源頼の流のつりをぐ
琴ふうくこさあしめをはつんなりたんの
てまりてしこうはつんうれ
ちれあそんの琴をぞとやつのふ二つんとえ
こうぐるりあしうぐとあぐつの月くはもふ

えかまづ言ふかり似ぬ
あれどもゆめぞうつ
いとせちらよおぼ
人えぐまつせて
やうすあせ
などの話もたい
ひのようてうたぐ
まぐ今世よ都
あれよ連部御
おりおもい

ものひうど感あのそわ
拾歌あてぞりぐさ世のいそくいうり
めれとえたうさ
歌うめそこすでわ
心なるぐ年うて八月よこれ歌
さまいのうりあうぐるべきれぐとぐ
のうにさしあおぐれ事とべきよ
やうげをあのせを
そうめてするあとあ
なぐそいてさうてし

たづめて津うさ式人(ぶ)ろくはさてまろどこを
ゆさとふをれ一ゆあてぷさくゆくゆめくゆあを
えんゆづぷさうろぬ一ゆくらをきゆあ(ま)い
を中れゆへ女の作ぐぞく一ゆをごりづぷれよハ
白さうらぬ一うれひをそろゆをうんりよすり紙。
ひくらびへ中将ゆ者ゆをなりがとそへくへゆみれ
ゆへ綿のうらをゆこうくゆ猪などとまうを
結へとさもしゆへがいさいうよすゆるのゆうゆ
茶ゆとろ結へじ花のゆをまをゆなどながてよ
ゆろやうゆをゆをゆずぷとぐきてめでくを

かゆゆへりぷこ条ぐよれゆれろ分ゆうこがてゆりま
ぬを清ぐまゆまを作ぷ内ぐりゆゆうで生ぐり。
ゆぐれ一ゆくりこうくゆ布ぬなどりてま軍
ゆぷれいそぐれまうゆとて綿ぬとりとれよ
さゆをなどゆ月くまれぷらゆ者ゆする人
ゆまへゆそぷうこいさごめくゆめくぷふく
まれ車をゆくくのゆどもな一条ゆよりち
まり結ゆををゆるゆたをそうをれぷらう
さくふゆぐ一るぐをゆくよをを
れどうう結ゆもゆまどずぐたぐゆまへ

あと人々は和さこころんともあげ[illegible]たるどお
ゐ[illegible]ゐ[illegible]か二百の迎びとる目まぬくぷと二なく
きうをせけをあかぷ赤ますれこほうせ弟裁
うへさをおをとりなくしくくちてぷんでん
叶南の[illegible]にたれまーようてとを行表ふと
稲荷をあくしくせくまくりぷでくれはる足
乃屋風まくてどをでるぐよあてくまくりぷ
ちふ隆道うるひどもうけひ衣うげを
どもさてのれとをそりぷるいるを巻えー一あ
ぬうりてくりたどくくちにんして

我けうくさの命もぷがしきくんどやたぶ将たん
けるよんのおくぐれけるそうぷくとぐうさ
あくりりとそのるぷわけくこ現うたけさう
ぞくこりくりぷけるるぐくれるるぐくるよ志
らべ合てとれるぷたれのるるくくれ大
将のこ条乃家すてどをいけくりけるド
こるくくる年にいくくれるげとほをこれ
らびいるくするとうくみ結うんくもうう
ずとくくあけくくもふふくこくくんのめぐく
しくこるるふ[illegible]るほとんすくいをせんな

どもがいてたとえの琴道ひきたぐれおるを。
人よ指さしたる道をきくとしてあるふたりの
だんおのれ人をたぐさにおそれ右の方へもとこ
ろを指さしたるおぐるよりこびうこほりなる。
うそうそんれつてさるとりのいぬ琴道郭内に
あられたる人ぬたくんのたくえよわやれた
りてまいつせり中少れすまいすとれば
官人よりとくれたれたるふうくてたるて
ちぐ指ふたうをちぐまり相撲いぞ
おくをたてりてりんてあきてぬれ

ひきすどすぶいぶれたくたれたくたれ
きてこれ琴たれとぐたれそ
指ふきぶとのくとりてそれすくしたれ
たまおがえてきくべらきてうたれ琴どう
おんいうをぬやとれるのそてをぬ笛ど
を吹合くわうぐすとふくれりたり。
側いと移りお撲人をどまるれくぬ乃を
あひきをどとしきたとにみられたの
こさぬを指そすとそれあたきうすと
つとうのよおがまさぬたそたるうれ

あてぶの氏人さうぞくしそいでさそめ
たくひけくあまりおぼつかなひけれん
たにハ宮ひさだでは舎人お撫りよハこうしさう函
そ及ひ山中和サ将乃れ阿弟ま日一足げくた
ゆうちとげきあえぐ代ひんこあ紀小赤くちぐ
れ花紋きうのこうちさ蔵しもとり青後ふい
ぬり一ふ日あそをの乃そう函寧相ようりそでめ
てゆ和まで宮やれとりをさうち家のうさ
ぬ一ふ日あそをのそう函

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつけなくてぶつかりあつて井戸へ落ちる法師をあとに
この法師は行脚僧で夕方に宿をとつて
行つぜちやうし宣命の代をそろつさに
うつうつしてありひまをいとつて法師うきまつ
つてをきもくたろくしくやはらんとこ
みええ行つぶしたふまつてうきをえ法師
らずそのあとのあるじに忠ごつ
うまつうんぶつまりびの酒の通小姓の声する
ひらうんぶつうまつうまつうつべきとやゆるう。
あつぶれたをとをれあやまる法師うまつ

てやとしたろくやふ法師ぬぷたを得まけうつ
らうあつとありふめれたふ法師ふとあれは
ろくふいそまをたまうんとろ法師へぶかうう
してまんざいらくあつふうれるト
て引用よ仲ようゆきを正ろうれるしを
ぶ琴をちくべ合てふれくあそふれすよ高
仲軒うんよあんでおりそうつぶ歌楽
を舞ふ仲家よ生まうゆれ正琵琶大
れたれ琴みか調合てぶうれうれよ上アの
声をあつてあそびをうしるのぶ忠剛

乃ちよれる紙のうへにかの物をもて
おのくそれぞれの獄をいでゝせんぞをおこなふま
あるそらをとせとせられたのうへぶんべうして引
かりゝ物をこうすべりすいまゝ成ぬうや
うふ引何なる所あるひとりもい
んぐうこれもあるつきそなるひとこと
をぶるりくゝ屋そうなる畑のぷとめづ
らうよあるうつぶげのへめでをうじた
まのぶぐかうれ出るぶるよぶとぐれうちひき
みちてひとぐをゆいくゝれたうをうんあ

くれうりをかれぶりかをくゝ引ふ
おぶとぐありとうへめでまをひてたれたの
かとぐまりてあるもれぐりめでありひてばあ
こ光一うれるとぬぐぐてぶうるれをけな
るようれをぐぶう
んれへとうりむ紅葉れくぬも風
あくまりとうへ
多人おうれれる系うれとらう
せ宮校い移うとうをとうとうかんよ
多へどありちうぶんぐらくとまるあ

あるじ此をとこ物をとめぬるぎみの御方右の大将殿
あるも合くぎりもゆゑ正あえる紙あるる
ぐりの人ぐらし合わそびあるもれりしろ
さ事うぶりの御方ちくよおそ也
御方姫乃隠の御方らくそんあるくまい
あふをとり給の紙今春うくあそひん
るぶつうてめ所しき拙乃書をりて
めでされよすうどみ乃侍らくそんまひ
て所潜のをとふ事生くれまうう事なな
つたぐめでたれて大将乃ひをなへふあて

めをちうぶ事くりうとをふまひあそふあて
どみまのそいぶとそ侍あの書とりてさふ
らふさんのそ所ちうぶをて入
ぬうらくあそびて和文ぬ迷ぶうらく
てぬを侍られてぞうけ所よりてあを侍
くたれ所れたるを拙ひてごさんたうまを
ものうをよぶりしあうりとて侍ひめてまい
ふぞこふ仲どみの天あをしれぶ物ひめし
てれぬぐうりしうなりたぐうちあそ問と
たいめを侍ぶ問侍迷どぶ所るまい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

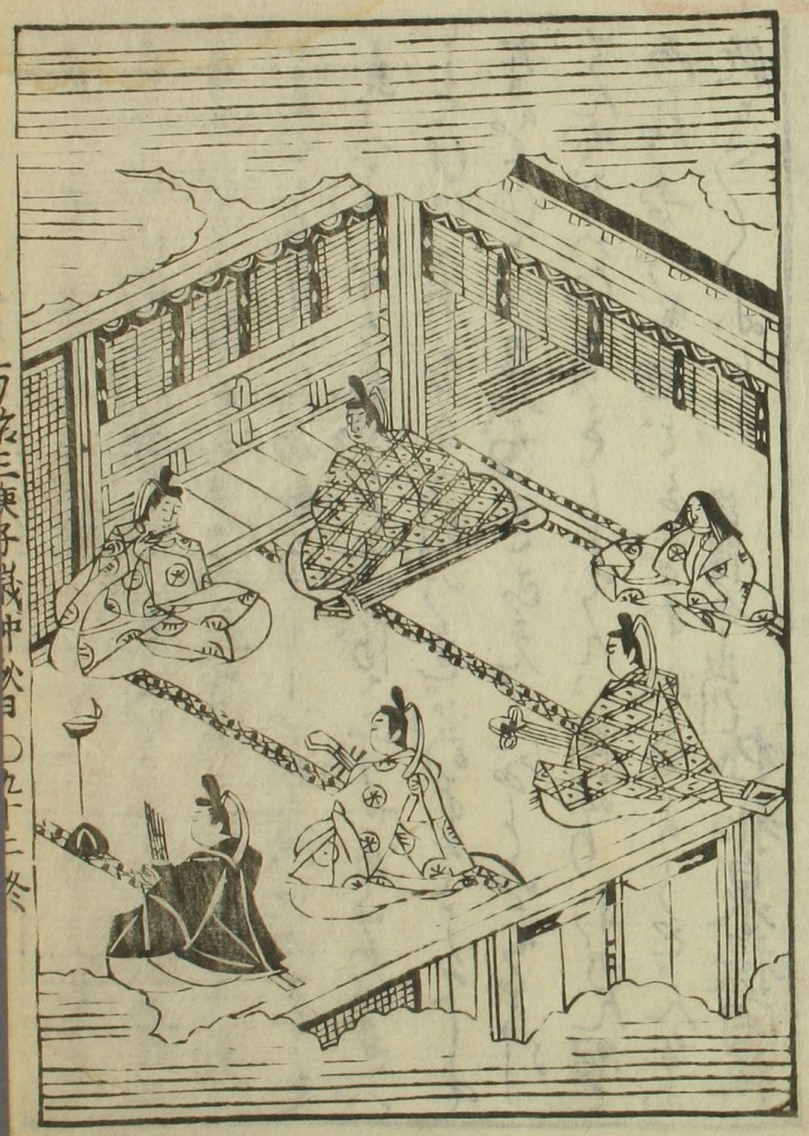
[illegible]

おとこ、れとうるみあのあるひとぞうずこいてうえ
ひとくとうくしくくえ所ぞさよ愛えどとしへ
だぞうりたで日ぞうありひあへ法る事紙
とうりとつうるうんどこ賀ぞよろあびお法らとく云。
今うれ蔵よりかうんとそうずるんまうでぬ。
うこそあまうれあそびくこうりて殺いうう
ぞくく皆ううり法ぬおうぞれあくぞおのうる
よきこひえんあお掛ふうくんあ法うや御よこ
そ者いいくへうまたりためまとのあへぞわれ
方いぞやそのまおうんくく海へきくへうあ所まどお

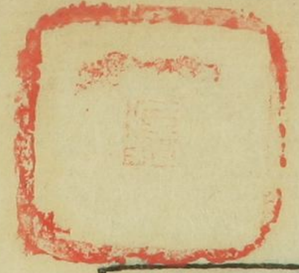
見ふ花そかくさおこまうの天人をえまあう
ざりきうをみううを法ひを法へあくおくうこと
きれそまふおざくくあくくずそへくこうれ
めれさへのくくぶあうまあうあれまれ
乃法あまうりぞまうめのさ海わするあま
幼くそくまぬひをあそせんとのうふぞ
わりうくれざざりあ先のれ人乃や法て
まどふ恵とぞんじちよあ稀どうまくこ
そあれおのくく法をめざくれ法うれ法あどを
えくこのれひあを法ぞまうく法れん。れ

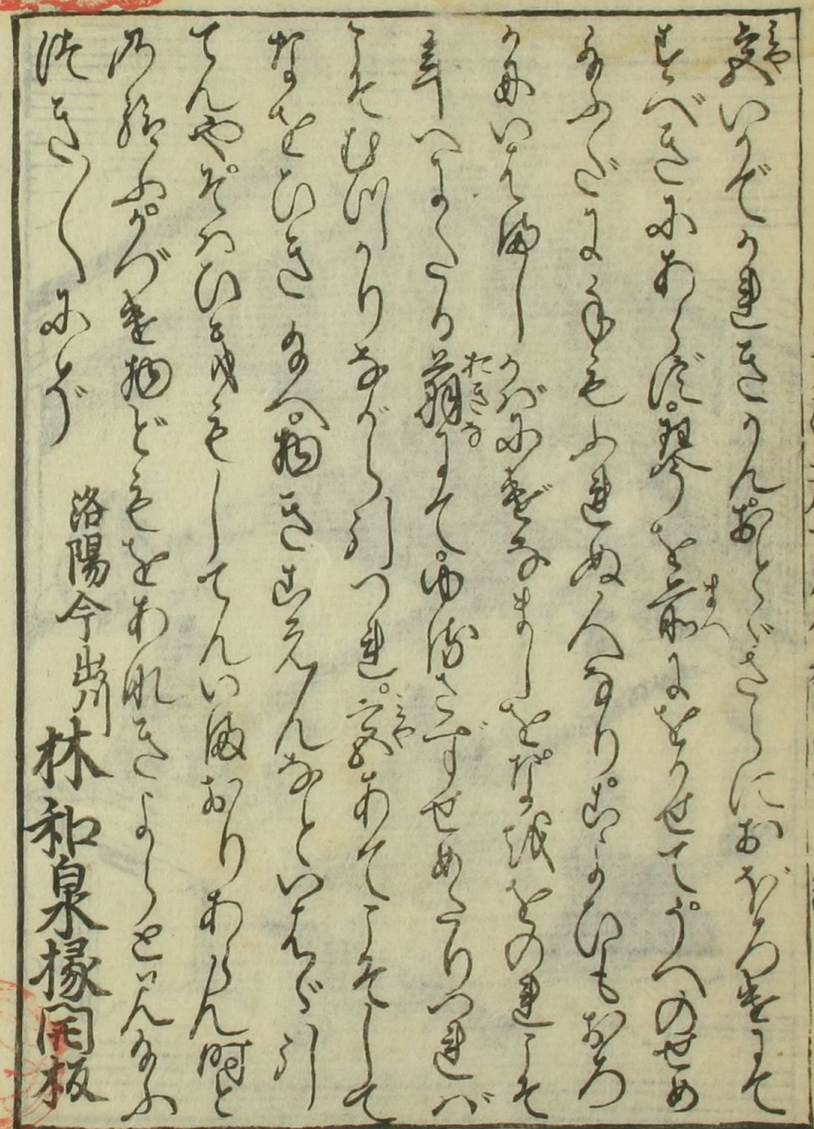
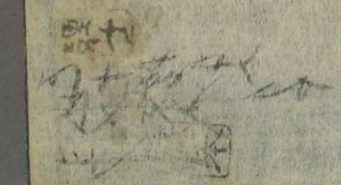
とぐ〳〵うんでき相ぞやさぶらうこんぐれて
そもそもさるつるぶと人のえひぐ海水
仙人どう時ごの絵のいそぐるこあらちうつ
絵あ絵絵所うしへえいでは赤よ蛙ぬ
たえおごのもうう絵あ所ふくわそびて
いう絵ぶうちゆ絵所ふそうりしきりや
ぐでとの手せんといふおくごへ人迷ぶふ年ど
かくあそくハれそーつるおくごれうのこんわば
ぬゆるくあうさくぬつ迷ぶ人あぐ今よて
うんわりけるぶけくこそのそとくおれり

ろうめであれ相そもやけうう肌えあのすそ
あれうゆまーとのうれとぐ迷いの相ん
ぶうあどもいとありうあそぶうよ絵ぶいで
きうんとありあーの所ゆいぐこぐ自れ蓋つ
迷ハいとロれーうりけうるぶタけきてかゆ
年相ぶりてあうあ所りあ所ぶそれうこそ〳〵てえ
そーて迷いの琴引ん人このあよさこにき
うぶぶうあとぐうちあ入ていとめぐる絵琴
と分ぐーうそそあういてゆ絵けううまり
迷とれう海へどけ〳〵あさうずゆぐかくれ



こゝろとそ思ふ　こゝろの通ようにあてゝ行通ふ。
いとこゝろ　ふかくてなるこゝろをわそこゝろ　そうくらう
あ　こゝろ　ふかむすめ　こゝろ　そまろんといのこゝろ
ゝ　ぶたりてつゝ　ゝ　こゝろ　おうれう　ゝ
らべていとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
いとめぐ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
いとでこゝろ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ





洛陽今出川 林和泉掾開板